

あおもり 国際交流つつしん

国際交流情報誌

9

2019
No.134

「青森県日本語指導サポーター養成講座」が開講しました

青森大学との連携で行う「青森県日本語指導サポーター養成講座」が2019年8月17日（土）、青森県観光物産館アスパムにて開講となりました。

開講にあたり、青森大学の石塚ゆかり准教授から諸注意があり、続いて、当協会の角常務からこの講座を開設するに至った経緯や青森県の日本語教育の現状などについての挨拶がありました。

第1回講座では、本講座受講生と青森大学「日本語教員養成プログラム」の受講生とが、6～7人ずつのグループに分かれて、グループ毎に自己紹介や課題への討議を行ったほか、青森大学の見城美枝子副学長の講義では、普段使わない顔の筋肉を動かしながらの「ことば体操」（早口言葉や、発声練習）を行いました。



青森大学の石塚准教授



青森大学の見城副学長

青森大学の韓国人留学生がゲストとして参加した講義では、韓国語には無いことから日本語を話すときに発音できない「音」があることを知り、出身国の母語に影響されることを確認しました。

『ニフニハ、ニフトリガイマス』は、アクセントをどこに置かによって「庭には、**二羽鳥**がいます」あるいは「庭には、**鶏**がいます」と意味が変わるので、日本語のアクセントの違いを教えるにはどのような工夫が必要かを考えるなど、多彩な講義を受けました。

アクセントを確認していく中で、共通語だと思っていたアクセントが実は方言だったことに改めて気づいた受講者もいたようです。

第2回講座は松岡洋子岩手大学教授、第3回講座は嶋ちはる国際教養大学准教授（秋田）と大学院生の盛小根恵さんを講師に迎え行われました。9月からは、「みんなの日本語」を使用した講座「日本語研究B」が始まります。

※2019年度の「青森県日本語指導サポーター養成講座」は、定員に達したため募集を締め切っております。

特別賛助会費（会員）募集！

「青森県日本語指導サポーター養成講座」の円滑な運営のために『特別賛助会費』を募集いたします。特別賛助会費は、3年間の限定で「特別賛助会員」となっていただき、一口1万円（複数口可）の会費を納めていただきます。

日本語指導サポーターは今後ますます必要とされます。より良い人材を育てていくためにも、ご理解、ご協力をお願いいたします。

青森県内の外国人の状況について

～ 青森県内で最も多い外国人は、ベトナム人！～

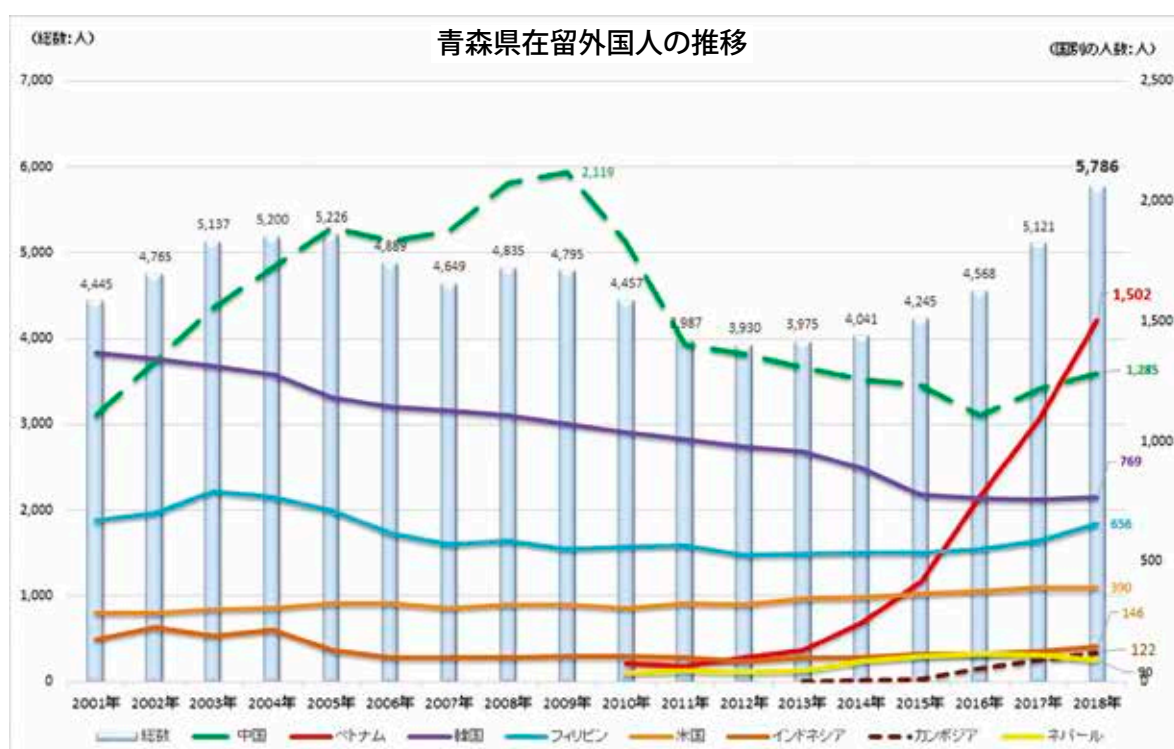
令和元年（2019年）7月25日に、平成30年（2018年）12月末現在の在留外国人統計が発表されました。これを基に県内の状況を分析してみましょう。

【1 青森県在留外国人数】～ 青森県在留外国人数は過去最高 5,786人 対前年伸び率 13% ～

日本における在留外国人数は、平成30年（2018）末時点では、2,731,093人（総人口の2.1%）で、前年末に比べ、17万9,026人（+7.5%）増加しました。

一方、青森県内の在留外国人数は、5,786人（県総人口の0.4%）で、前年末に比べ665人（+13%）増加し、過去最高となりました。

在留外国人数を全国と比較すると44番目となっていますが、対前年伸び率は13%と全国7位となっています。青森県の在留外国人の人数は、2013年から増加に転じて増加し続けており、特にここ3年間急増し、伸び率は毎年10%を超えている状況となっています。

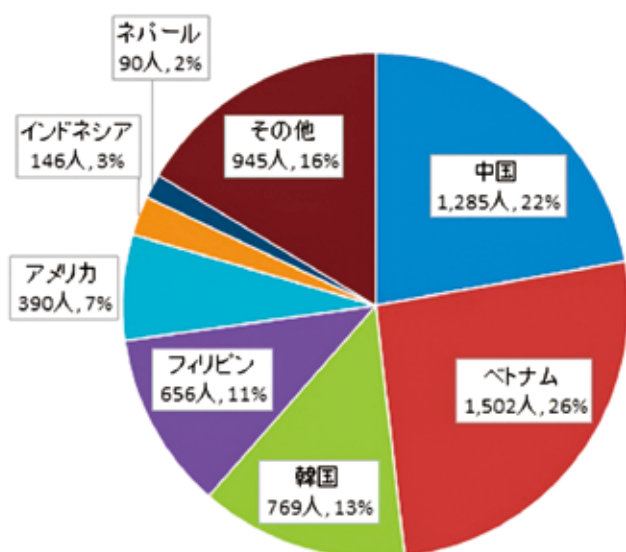


引用元：法務省在留外国人統計

青森県内の在留外国人を国籍別でみると、ベトナム人（1,502人、対前年比+37.4%）、中国人（1,285人、対前年比+5.6%）、韓国人（769人、対前年比△8.2%）、フィリピン人（656人、対前年比+11.9%）の順となりました。

ベトナム人は1年間で約400人増加し、中国人より多くなり、県内で最も多くなりました。また、全国的な傾向としてネパール人の増加（対前年比+18.6%）が顕著ですが、青森県の場合は、ネパール人は減少に転じ、一方、カンボジア人が増加している点が注目されます。

青森県在留外国人 国籍別構成比
2018. 12月時点



国籍別人数 (対前年及び5年前との比較)

	2018年 12月	2017年 12月	増減率 18年/17年	2013年 12月	増減率 18年/13年
中 国	1,285人	1,217人	5.6%	1,310人	△1.9%
ベトナム	1,502人	1,093人	37.4%	133人	1,029.3%
韓 国	769人	838人	△8.2%	958人	△19.7%
フィリピン	656人	589人	11.4%	534人	22.8%
アメリカ	390人	390人	0.0%	347人	12.4%
インドネシア	146人	133人	9.8%	99人	47.5%
ネパール	90人	100人	△10.0%	45人	100.0%
カンボジア	122人	92人	32.6%	1人	12,100.0%
パキスタン	66人	67人	△1.5%	43人	53.5%
モンゴル	18人	2人	800.0%	5人	260.0%
その他	739人	600人	23.2%	500人	47.8%
青森県 外国人 合 計	5,786人	5,121人	13.0%	3,975人	45.6%

【2 市町村別の外国人数】 ～ 市部では八戸市が最も多く、町村部ではおいらせ町が最も多い ～

市町村別でみると、八戸市（1,189人）が最も多く、次に青森市（1,029人）、弘前市（827人）、三沢市（580人）、十和田市（307人）の順となっています。

町村では、おいらせ町（232人）が最も多く、次に六ヶ所村（122人）、野辺地町（114人）、東北町（100人）、六戸町（88人）の順となっています。

市町村ごとの国籍別でみると、ベトナム人は、青森市（274人）、三沢市（247人）、八戸市（195人）の順となっており、中国人は、八戸市（327人）、弘前市（242人）、青森市（170人）で多くなっています。

市町村別在留外国人の推移

単位：人

順位	市町村名	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	対前年伸び率
1	八 戸 市	763	815	899	947	1,054	1,189	12.8%
2	青 森 市	854	849	883	908	964	1,029	6.7%
3	弘 前 市	622	634	623	685	736	827	12.4%
4	三 沢 市	327	329	356	415	505	580	14.9%
5	十 和 田 市	216	220	211	238	267	307	15.0%
6	おいらせ町	109	117	140	155	195	232	19.0%
7	む つ 市	134	148	134	144	148	153	3.4%
8	黒 石 市	49	52	70	74	111	130	17.1%
9	六ヶ所村	67	71	82	87	98	122	24.5%
10	野 辺 地 町	47	50	77	68	89	114	28.1%
11	五所川原市	113	88	82	90	95	100	5.3%
12	東 北 町	59	66	52	62	82	100	22.0%
13	つ ぎ る 市	34	43	44	60	77	96	24.7%
14	六 戸 町	60	56	67	75	76	88	15.8%
15	平 川 市	42	52	48	35	60	78	30.0%
16	中 泊 町	27	28	26	43	56	73	30.4%

【3 在留資格別の状況】～在留資格「技術実習」が最も多い。「技術・人文知識・国際業務」も増加～

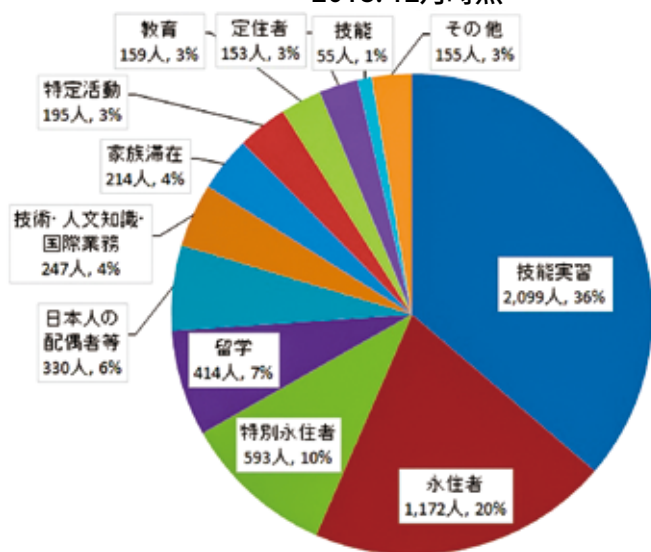
青森県内の外国人の在留資格別でみると、最も多いのが「技能実習（構成比36%）」、続いて「永住者・特別永住者（30%）」、「留学（7%）」、「日本人の配偶者（6%）」、「技術・人文知識・国際業務（4%）」となっています。

技能実習生の増加は、企業や事業協同組合の労働力ニーズを反映したものとされます。ベトナム人は日本の労働環境に適応しやすいと言われ、今後も増加し続けると見込まれます。特に、製造業や造船業が立地されている市町村の場合は、技能実習生数は大きく増加しており、1事業所で50名以上の技能実習生を受け入れているところもあります。その他の業種では少人数の雇用が多いため、県内各市町村に分散しています。

「特別永住者」が大半を占める韓国人・朝鮮人は、高齢化や日本国籍の取得等に伴って減少傾向にあります。

青森県在留外国人の構成比(在留資格別)

2018.12月時点



在留資格別（対前年及び5年前との比較）

	2018年 12月	2017年 12月	増減率 18年/17年	2013年 12月	増減率 18年/13年
特別永住者	593人	609人	△2.6%	738人	△19.6%
永住者	1,172人	1,138人	3.0%	1,043人	12.4%
留 学	414人	384人	7.8%	280人	47.9%
技能実習	2,099人	1,650人	27.2%	786人	167.0%
技 術 人文知識 国際業務	247人	188人	31.4%	96人	157.3%
日本人の 配偶者	330人	337人	△2.1%	408人	△19.1%
その他	931人	815人	14.2%	624人	49.2%
青森県 外国人 合 計	5,786人	5,121人	13.0%	3,975人	45.6%

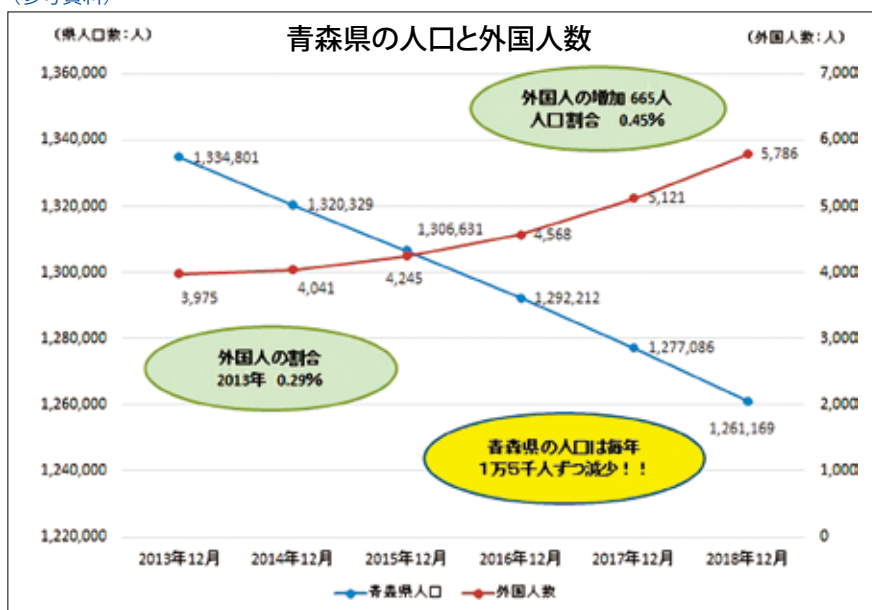
【4 今後の方向】～多文化共生の仕組みを考えよう～

国では中小企業等の慢性的な労働力不足を解消するために、今年4月から新たな在留資格「特定技能」が加えられ、この新たな在留資格では家族同伴も認められていることから、今後、家族とともに青森県に住む外国人が次第に増加するものと

(参考資料)

考えられます。その場合、当然、外国人も雇用、医療、教育等、日本人と同等の公共サービスが受けられ、かつ、安心・安全な生活環境のなかで暮らしていけることが不可欠です。

外国人も、私たちと同じ青森県の住民であり、多文化を受け入れ、お互いを認め合いながら共に生きていく社会（「多文化共生社会」）の実現に向けた取り組みを着実に進めることが求められます。



県人口データ：青森県推計人口

台湾折り紙教室・文化理解講座を開催しました

～ 国際交流ラウンジ運営サポーター ^{タイ スウクエイ} 戴 淑貴 (台湾出身)

7月19日(金)、国際交流ラウンジで「台湾のご先祖様ってお金持ち!?」をテーマに、台湾の折り紙教室・文化理解講座を開催しました。

まずは、簡単な折り紙「元寶」^{ユアバオ}を作りました。

「元寶」はご先祖様へお供えするお金になります。金色や銀色の紙に細やかな模様や文字が書かれていますが、ご先祖様に対する感謝や私たちの願いを意味します。「寿延福祿（幸福であること、稼げること、健康であること）」、「富貴平安（家内安全で富や豊かさをもたらされる）」、祖先に願うことは、どの国でも共通ですね。

次に「蓮花」^{レンファ}を作りました。「蓮花」は亡くなった方のご冥福を祈る



元寶（ユアバオ）と蓮花（レンファ）

ために折るものです。花びらを作るところからスタートしますが、折り方は簡単ですが、必要な花びらはなんと20枚!!

最初はおしゃべりしながらスタートしましたが、だんだんと無口になり、黙々と作っていたみなさんでした。(笑)

20枚の花びらを組み合わせて花の形にしていくのですが、一輪目を作った時は難しいようでしたが、二輪目になると折るスピードも早くなり、なんと美しさまで追求していました。(びっくりです)



折り紙教室の様子

おしゃべりの中で紹介した台湾のお葬式について、ちょっとだけ紹介します。

台湾では、人が亡くなってもすぐに火葬はしません。亡くなった人にとって、残された家族にとって良い日を、風水の先生に選んでもらいますが、2か月ぐらいになることも珍しくありません。ご遺体は棺桶サイズの冷凍庫に安置し、日本と同じく、火葬するまで蝋燭と線香を絶やさないように守ります。

ということは、2か月もの間、不眠不休!?!の状態です。日本でこの話をするとびっくりされますが、それほど故人との別れを惜しんでいるということだと思います。

仏様(故人)には、お膳のほか、折り紙の「元寶」^{ユアバオ}と「蓮花」^{レンファ}などをお供えし、三食ごとに燃やして冥福を祈るのです。火葬する時には、108輪の「蓮花」^{レンファ}と、あの世で困らないようにありったけの「元寶」^{ユアバオ}をつめてお見送りします。

大好評につき、毎週金曜日に開催します。続きが気になる方は、ぜひ国際交流ラウンジへお越しください。折り紙を折りながら、台湾の風習などについてもご紹介します。再會!! (またね!!)

「ベトナム人実習生との文化交流」in 和徳小学校を開催しました

当協会は、今年度から技能実習生と地域の皆さんとの交流の機会を設けることにより、在住外国人を地域で迎え入れる機運の盛り上げを図ります。

本年7月7日(日)、弘前市立和徳小学校の体育館で、ベトナム人技能実習生の皆さん約70名と、小学生とご父兄、地元の和徳学区地区連合町会の皆さんが、「AOMORI花嵐桜組のベトナム語による公演を楽しむとともに、お菓子を食べながら色々とお話をし、ベトナムの遊び「ダーカウ」を体験しました。

地元の弘前市役所の担当者や、弘前大学の研究者の方々も参加し、技能実習生の研修施設がある東和徳町の周辺の方々が外国人と心豊かに暮らしていくためにはどのような取組みが求められるのかを考える機会となりました。

当協会では、引き続き同町会内の皆さんと技能実習生との交流が深まるよう支援します。本事業は、来年1月に県南地域においても行う予定です。

2019年7月25日、秋田県が主催する『多文化共生セミナー「やさしい日本語」、使ってみませんか?』を受講しました。

基調講演は、秋田県企画振興部国際課の畠山課長が「秋田県が多文化共生について」をテーマに、秋田県の在住外国人の状況や外国人の方が困っていることなどをご説明され、今後の課題として、県民の「多文化共生」の意識啓発や各窓口における多言語化の推進と、「やさしい日本語」の活用推進を挙げていました。

特別講演は、弘前大学人文社会科学部の佐藤和之教授が、『災害が起きても秋田に住む外国人や子どもに安心を伝える「やさしい日本語」』をテーマにご講演されました。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、総務省消防庁が「外国人来訪者や障がい者等に配慮した災害情報の伝達・避難誘導」の表現として、日本語・英語・中国語・韓国語とともに「やさしい日本語」を使うこととなり、火災・地震発生時の「やさしい日本語」9の基本フレーズを使い、おもてなしとは切り離し、自信を持って使える日本語で伝達することになったとのこと。

※火災・地震発生時の「やさしい日本語」9の基本フレーズ

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| ①「〇〇で火事です。」(危険情報) | ⑤「逃げるときは、お知らせします。」(誘導表現) |
| ②「〇〇は危険(あぶない)です。」(危険情報) | ⑥「今すぐ逃げてください。」(誘導表現) |
| ③「今の場所にいてください。」(禁止表現) | ⑦「私の後について来てください。」(誘導表現) |
| ④「エレベーターを使うことができません。」(禁止表現) | ⑧「この建物は安全です。」(安心情報) |
| | ⑨「すぐに係の人が来ます。」(安心情報) |

* 2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会ポータルサイト/「やさしい日本語」について
URL : <https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/multilingual/references/easyjpn.html>

アメリカ政府機関では、公文書はブレイン・イングリッシュ (plain English / 平易な英語、小学4年生レベルのグレード4) を使うことが法律で決められており、「簡潔」で「明瞭」な英語で書くこととしています。

英語を話せない住民がいることから、消防士は災害時に被災者とブレイン・イングリッシュでコミュニケーションをとるといってお話をされた時、隣の席で聴講していたご婦人の方(英語を長く学んできたそうです。)が、佐藤教授の大学での講義を受けてみたいと言っていました。

佐藤教授が参加者である外国人の方へ「災害時どこへ行きますか?」と質問すると、職場である「学校へ行く」と答えが返ってきました。阪神大震災では教会へ避難する方が多かったそうです。

中越地震が発生した時の長岡市では、外国人が市役所へ集まり、掲示板に貼り出された情報を母語に翻訳して提供したとのことで、当初は外国人にわかりづらい日本語だったため、翻訳に時間がかかりましたが、大事なことで以外のことを削除し、外国人にもわかる「やさしい日本語」へ修正を重ねて変化していったそうです。

災害時、外国人は「弱者」とされていますが、外国人が理解できる「やさしい日本語」で情報を伝達することで日本語が話せない外国人に情報を伝達することができ、外国人も助けを必要とする人に手を差し伸べることができるようになり「弱者」ではなくなるというお話が、印象強く残っています。



* 弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室ホームページ
URL : <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/index.html>



青森から世界へ ～JICA海外協力隊活動報告～

青年海外協力隊 2018年度 1次隊 ヨルダン・ハシミテ王国

松井 将大 (三戸町出身：青少年活動)

こんにちは。2018年6月に青年海外協力隊としてヨルダンに赴任し、活動している松井将大と申します。

私は、首都アンマンにある日本の児童館のような施設で活動しています。施設にはヨルダン人だけではなく難民の子どもも多く来所し、彼らに向けて教育的な要素を踏まえた授業を展開しています。

ヨルダンの多くの学校では、日本で当たり前のように行われて



美術の活動



食育の活動



難民キャンプ内の風景

いる音楽、体育、美術といった情操教育が行われていません。そのため、子ども達に新鮮な体験の機会を与えられるよう、こうした情操教育のほか、食育や障害理解など多岐に渡る活動を行っています。

また、配属先での活動とは別に、生活実態調査の一環として月に数回、パレスチナ難民キャンプを訪問しています。

アンマン市街地から20kmほどしか離れていないにも関わらず、その地区に入ると様相は大きく変わります。調査を通じて、難民としてヨルダンへ移住するに至った背景やキャンプ内における生活の困難さなど、彼らの悲痛な思いを何度も伺ってきました。

難民受け入れが極めて少ない日本ではイメージするのが難しい問題かもしれません。日本から遠く離れた場所では、理不尽に故郷を追われた人達が困難な状況での生活を強いられています。

残す任期も早いもので1年を切り、帰国後の進路も自分のなかで定まりつつあります。先を見据えた将来設計をし、活動の集大成にも向かっていきたいと思っています。



首都アンマンの風景

JICA青森デスク

JICAの事業についてご質問などございましたら、JICA青森デスクまでご連絡ください。
TEL: 080-3140-2129 E-mail: jicadpd-desk-aomoriken@jica.go.jp

三沢基地内大学県民就学推進事業／2020年春期就学者募集！

● 三沢基地内大学説明会参加者募集！

三沢基地内にはメリーランド大学・トロイ大学院の2大学があり、日本人も就学することができます。三沢基地内大学への就学をお考えの方、ご興味のある方のご参加をお待ちしております！

- 日 時：2019年11月16日（土）10：30～12：00
- 場 所：三沢市国際交流教育センター（三沢市三沢園沢230-1）
- 内 容：・応募方法の説明
・大学概要説明
・メリーランド大学模擬授業
・就学生の学生生活について
・質疑応答
- 申込締切：11月15日（金）まで
- 申込方法：①お名前（ふりがな）、②ご住所、③お電話番号、④希望大学を、郵便・FAX・メールのいずれかで、当協会にお知らせください。
『説明会参加希望』と明記してください。

● TOEFL ITP試験のお知らせ

三沢基地内大学就学希望者（メリーランド大学ブリッジコース）及び就学生を対象にTOEFL ITP試験を実施いたします。

- 日 時：2019年12月15日（日）13：00～16：00
- 場 所：三沢市国際交流教育センター（三沢市三沢園沢230-1）
- 受験料：4,680円
- 申込締切：11月20日（水）まで
- ※最低申込人数に満たない場合、試験が実施できないことがあります。
- ※申込方法などの詳細につきましては、当協会までお問合せください。協会ホームページでもご案内をしています。

■ お申込み・お問合せ先

TEL：017-735-2221 / FAX：017-735-2252
E-mail：info@kokusai-koryu.jp
Website：http://www.kokusai-koryu.jp/business/misawa/guidance/

青森県内の国際交流事業・イベント紹介

● みんなの応援隊ネットワーク

* 楽しくおいしいランチ教室

思いやり、支えあう地域社会をつなぐために活動しています。

- 日 時：2019年10月12日（土）12：30～14：00
2019年11月16日（土）12：30～14：00
※11/16は青森ユネスコ協会様と共催します。
- 場 所：青森市中央市民センター 2階 料理室
- 定 員：100人
- 参加費：無料（※日本人の方はボランティア保険料及び参加料として300円をご負担ください。）
- お申込み・お問合せ先：
（事務局）国際文化交流クラブ 神山さん
TEL：090-7660-1583
E-mail：potlucksmore@yahoo.co.jp



* あおもり県民カレッジ
単位認定のボランティア
活動です

● 一般社団法人国際にほんご教育センター

今秋『にほんごスクール弘前』を開講します。

これに向け、指導ボランティアを募集中です。指導初心者の方、経験のある方、どちらでもお気軽にお問い合わせください。

- 日 時：大清水教室 毎週水曜日 17：00～18：30
ヒロコ教室 毎週土曜日 16：00～17：30
- お問合せ先：一般社団法人国際にほんご教育センター
TEL：0172-38-7707（本部）
E-mail：inihongo.e.c@ijec.jp
website：http://www.ijec.jp/

● 弘前日本語クラブ

* 日本語教室

日本語の勉強をしたいという方、日本語を教えてみたいという方を随時募集しています。

参加希望者は事前にメールにてお問合せの上、会場へお越しください。

- 日 時：毎週金曜日 19：00～21：00
- 期 間：後期：10/4～12/6（※11/29はお休みです。）
- 場 所：ヒロコスクエア多世代交流室 3階
（弘前市大字駅前町9-20）
- 参加費：1,500円／半期、3,000円／年間
- お申込み・お問合せ先：弘前日本語クラブ
E-mail：hnc1900@yahoo.co.jp
Website：http://hnc.g1.xrea.com/

● あおもり地球市民ネット

* 地球市民講座～私が出会った女性たち

青年海外協力隊としてサモアへ行かれた方が、そこで見た・出会った女性たちの文化や生活について語ってくれます。

参加ご希望の方は、事前に連絡してください。

- 日 時：2019年10月5日（土）13：00～15：30頃
- 場 所：アピオあおもり小研修室 3（青森市中央3-17-1）
- 参加料：無料
- お申込み・お問合せ先：あおもり地球市民ネット
TEL/FAX：017-736-3235
E-mail：cttmidp@mbj.ocn.ne.jp



* この講座は、あおもり
県民カレッジの単位
として認められます

公益財団法人青森県国際交流協会 Aomori International Association

国際交流ラウンジ／International Lounge

〒030-0803 青森市安方1丁目1-40
青森県観光物産館アスパム2F
ASPAM BLDG. 2F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.
Post-Code：030-0803
TEL：017-718-5147 FAX：017-718-5148
E-mail：lounge_supporter@kokusai-koryu.jp

事務局／Office

〒030-0803 青森市安方1丁目1-40
青森県観光物産館アスパム7F
ASPAM BLDG. 7F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.
Post-Code：030-0803
TEL：017-735-2221 FAX：017-735-2252
E-mail：info@kokusai-koryu.jp



* 国際交流ラウンジカウンター／外国人からの問合せ窓口

受付時間／10：00～18：00
休日／毎週月曜日 年末・年始休日／12月30日～1月3日
アスパム休館日／2月24～25日

Website：http://www.kokusai-koryu.jp
f https://www.facebook.com/aomori.kokusai.koryu
t https://twitter.com/aomorikokusai